

学級の課題を自分事として捉え、主体的に話し合うことができる生徒の育成  
 ～学級活動における生徒からの提案と多様な意見を認め合うための工夫を通して～

## I 主題設定の理由

現状把握として3校の生徒に学校生活に関するアンケートを実施したところ、「学校が楽しい」と答えた生徒が94%であった。学級活動についてのアンケートでは、多くの生徒から「発言が少ない」などの記述が多く見られた。また、「困ったことはありますか」という質問に対し、「一部の人の意見だけで決めてしまう」という記述が見られた。学級活動の話合いにおいて、一部の生徒の意見のみで決定することが多く、多くの生徒は自分の問題であるという意識が薄く、「大切な学級の一員」として話合い活動に参加できていないことが明らかになった。

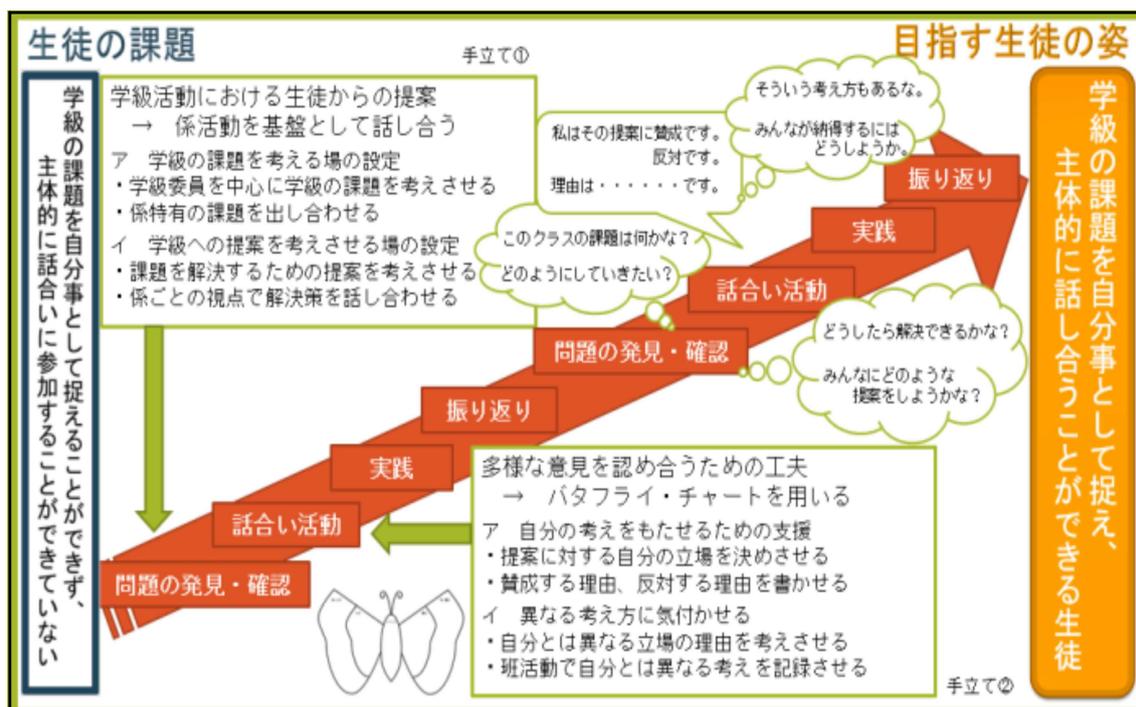
このように、多くの生徒は学校が楽しいと感じているものの、学級の課題を自分事として捉えることができず、主体的に話合いに参加することができていないという現状がある。原因として、話合いのテーマが学級の課題を取り扱うことが少なく、課題に対して自らの考えを十分にもつことができない。また、教師主導で解決案を決めてしまったり、一部の生徒が発表し、多数決で議決されてしまったりすることが考えられる。

そこで課題の解決に向けて、よりよい学級にするために生徒自身が学級の課題を考え、解決するための提案をし、学級活動で話し合う活動を行っていきたい。また、話合いにおいては、提案に対して自分の考えをもたせて発表できるようにしたり、自分とは異なる立場の見方に気付き多様な意見を認め合えたりできるように支援を行っていくことが有効であると考えられる。

以上のことから、学級活動の話合いでよりよい学級にするための生徒からの提案について話し合う場を設定し、生徒が自らの考えを出し合い、多様な意見を認め合えるように支援を行うことで、学級の課題を自分事として捉え、主体的に話し合うことができる学級活動を行うことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

## II 研究の内容

### 1 研修構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

「学級の課題を自分事として捉え、主体的に話し合うことができる学級活動」を行うために、生徒がよりよい学級を目指して活動し、議題について自分事として捉えて話し合いに参加することが必要である。そこで、「はばたく群馬の指導プランⅡ」の学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の例を基にして授業を組み立て、以下の2つの手立てを行っていくものとする。

### 手立て① 「学級活動における生徒からの提案」について

生徒が学級の課題を自分事として捉えて話し合いに参加するためには、生徒一人一人が生活上の課題を見だし、学級をよりよくしていく提案をすることが望ましい。しかし、個人で課題を見だしたり、提案をしたりすることは困難である。本研究では、係活動を基盤としてこれらの活動を行うこととする。具体的には次のような実践を行う。

#### ア 学級の課題を考える場の設定

問題を発見する場面において、生徒がよりよい学級づくりに関わる必要感や切実感のある課題を見だせるよう、係活動で班をつくり、係特有の課題が挙げられるようにする。普段からともに活動しているため、意見が出しやすく充実した活動が行うことができると考えられる。

#### イ 学級への提案を考える場の設定

事前の学習では、主体的に話し合いに参加できるよう、係活動ごとに課題を解決するための提案を考える場を設定する。学級活動の前にそれぞれの視点で解決策を話し合わせることで、見通しをもたせる。(図1)



図1 係活動ごとに提案を話し合う様子

### 手立て② 「多様な意見を認め合うための工夫」について

学級活動における主体的な話し合いを実現させるために、議題について多様な意見を出し合い、認め合うことは重要である。そのためには、自分の考えをもつとともに、他者の意見を分類・整理し、自分とは異なる見方に気付くことが必要である。本研究では、思考ツールである「バタフライ・チャート」を用いることでこれらの支援を行う。(図2)

具体的には、次のような実践を行う。

#### ア 提案について、自分の考えをもたせるための支援

個別の活動において、バタフライ・チャートの「トピック」に提案を記入させ、自分の立場を「強い賛成」、「賛成」、「反対」、「強い反対」から選ばせる。その欄に選んだ理由を記入させる。

#### イ 自分とは異なる見方に気付かせるための支援

班での活動において、友達の見聞きながら、バタフライ・チャートに記入させる。記入したものと自分の意見を比較することで、自分とは異なる見方に気付かせる。見方の違いに気付いた後、班としての意見を決めさせる。

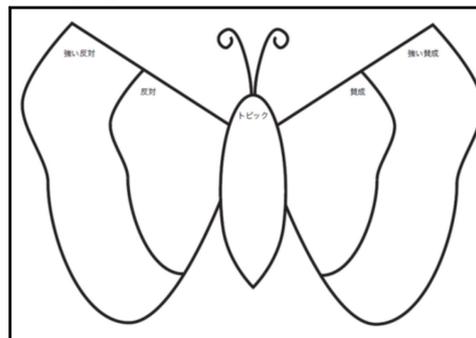


図2 バタフライ・チャート

### Ⅲ まとめ

#### 1 成果

- ・学級活動のアンケートにおいて、「学級の課題を自分のこととして考えることができた」と94%の生徒が回答している。(図3) 生徒が感じた課題を自ら解決していく活動を繰り返し行っていくことにより、よりよい学級づくりに関わる必要感や切実感のある課題を見だし、学級をよりよくしていこうとする態度を身に付けさせることができた。また、普段から共に活動している係活動を基盤とした話し合いは自分の考えを発言しやすい環境であり、意見が反映されやすく、意欲的に実践に取り組む生徒が多かった。
- ・話し合いについてのアンケートにおいて、「提案に対して自分の意見をもつことができた」、「班や全体の話し合いで、友達と意見を伝え合うことができた」及び「友達の発表を聞いて、その意見のよいところを見つけることができた」と回答をしている生徒が80%を超えている。(図3) バタフライ・チャートを用いて支援を行ったことにより、自分の考えをもつとともに、自分とは異なる見方のよさに気付くことができ、一人一人が主体的に話し合うことができた。また、自分とは異なる意見をバタフライ・チャートに記入させたことで、自分の意見との相違が分かりやすく、多様な意見を理解し、認め合うことに効果的だった。
- ・学級の課題についてのアンケートでは、「忘れ物をなくしたい」、「もっと手を挙げて発表する」などの前向きな記述が見られた。本実践を通して、自分自身が変わろうとする記述や自分のことだけではなくクラスがよくなるためにどんなことが必要かなどの記述が見られ、学級の一員であるという意識を高めることができたと言える。
- ・学級活動のアンケートにおいて、「学級活動を通してクラスや自分自身がよくなったと思う」と回答した生徒が10%増加した。また、「学級の中で自分が活躍する場面がある」と回答した生徒が25%増加した。(図4) 生徒が話し合い活動を繰り返す度に、学級をよりよくしようと対話をする姿が見られた。本実践を通して、生徒は自己の成長を感じ、他者と協働とすることで自己有用感を感じる事ができた。

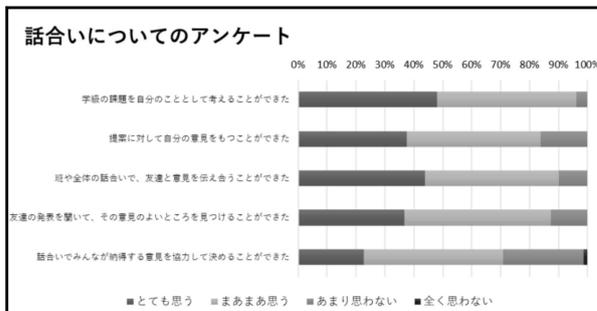


図3 話し合いについてのアンケート

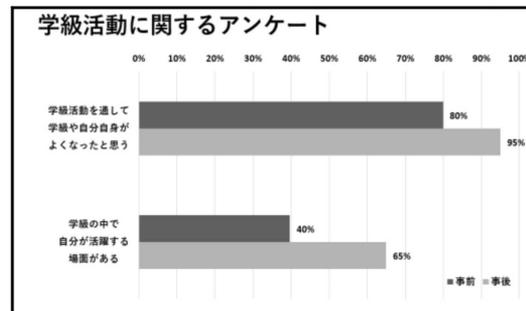


図4 学級活動に関するアンケート

#### 2 課題

- ・「話し合いを通して、みんなが納得する意見を協力して決めることができなかつた」と回答した生徒が28%もいた。実際に、バタフライ・チャートにより多様な意見を出し合うことができたが、学級全体で合意形成することに時間がかかった。話し合いの目的を生徒に伝えたり、論点が話し合いの趣旨からずれないように教師が支援したりする必要がある。また、学級全体での話し合いにおける具体的な手立てが必要である。

#### <参考文献>

- 「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説特別活動編」（平成30年3月文科省）
- 「はばたく群馬の指導プランII」（令和元年8月群馬県教育委員会）
- 「シンキングツール～考えることを教えたい～」(平成24年4月黒上晴夫)

#### IV 研究の実践

##### 実践例 1（登坂教諭：沼田市立沼田東中学校 第 1 学年）

###### 1 議題 「学級をよりよくする提案について話し合おう」 内容（1）ーア

###### 2 議題選定の理由

###### （1）生徒の実態（男子 14 名、女子 7 名、計 21 名）

本学級の生徒は、男女問わず仲がよい。雰囲気も全体的に明るい。しかし、仲はよいものの、自分の意見や考えを全体場で発表することが苦手な生徒が多い。

事前に行ったアンケートの結果、「学校は楽しい」と答えた生徒は 89% であり、「学級の中で活躍する場面はありますか」という質問に対する肯定的な回答は 42% であった。また、「学級活動の授業を通して、クラスや自分自身がよくなったと思いますか」という質問に対する肯定的な回答は 84% だったが、その内容のほとんどがクラスでのレクリエーションであり、話し合い活動や学級会を通して学級の仲が深まったと答えた生徒は 3 人のみだった。

本学級で、学級活動「学級の課題を考えよう」を行った際には、「積極的に行動できる人が少ない」「挨拶や返事がしっかりとできない」「当たり前なのが当たり前でできない」等の意見が多数上がった。しかし自分たちの課題点を把握できてはいるものの、それらを全体場で発言したり、指摘し合ったりすることができていないという現状がある。

このことから、クラスの課題を全体で共有し、改善策を考え、全員の同意をもってクラスのルールを作り上げる本時の学習はクラスの仲を深めることはもちろん、自己有用感を高めつつ、よりよいクラスを作っていくために有効であると考えられる。

###### （2）本議題について

本時では、「当たり前なのが当たり前でできない」という学級の課題を改善するための「道しるべ係」からの提案について話し合うことを設定した。

学級では毎日道しるべという予定表を生徒が書いている。しかし、翌日の授業内容を書く欄をしっかりと書いていない生徒が多く見受けられるため、授業道具の忘れ物が多いという現状がある。このことを改善するために「道しるべ係」は「昼休みまでに各教科係は翌日の予定を聞き、全員が帰りの会までに道しるべに記入する」ということを全員が守って生活すればよいのではないかと考えた。なぜなら、「昼休みまでに明日の予定が予定黒板に書かれていれば、全員が余裕をもって道しるべに記入でき、忘れ物も減るのではないか」と考えたからである。このことにより、学級は当たり前のことを当たり前でできるようになり、今よりもさらによいクラスになることが考えられる。しかし、この提案では「昼休みまでに聞きに行くのは忙しい」「休み時間を使って道しるべを記入するのは嫌だ」という意見が出されることが予想される。本時では生徒同士の話し合い活動を通して、「道しるべ係からの提案を全員が自分事として捉え、友だちの意見に対して上手く折り合いをつけながら自分たちで取り組むことを決めることができる」という合意形成が行われることが期待される。

###### 3 ねらい

学級の課題を自分事として捉えて自分の考えをもち、異なった考え方を受け入れながら主体的に話し合い活動を行い、よりよいクラスを作るために自分たちに何ができるのかを考えながら合意形成を行うことができる。

#### 4 指導の様子

##### (1) 事前の活動

###### ○問題の発見

学級活動「学級の課題を考えよう」により、学級の課題を明らかにした。本時の活動では、「当たり前前の方が当たり前前にはできない」という学級課題を解決するための「道するべ係」からの提案について考えた。

###### ①ーア 学級の課題を考える場の設定

- ・クラスの課題を考える時間を設定した。
- ・出てきた課題を一覧表にまとめ、教室の後ろに掲示し、意識して生活できるようにした。(図5)
- ・毎日のめあてを課題一覧表から決めさせ、振り返りができるようにした。



図5 クラスの課題一覧

###### ○議題の選定

学級の課題に対しての各係からの提案のうち、「道するべ係」からの「昼休みまでに各教科係は翌日の予定を聞き、全員が帰りの会までに道するべに記入しよう」という提案について話し合うこととした。

###### ①ーイ 学級への提案を考える場の設定

- ・課題に対しての解決策を学級の係単位で考えた。(図6)
- ・「よりよいクラスにするために改善策を考える」ということを全員が意識して話し合いができるように声かけを行った。

クラス全員で取り組めそうな内容を具体的に考えさせた。



図6 係ごとの話し合いの様子

###### ○議題の決定

「道するべ係」と打ち合わせを行い、今は「道するべをしっかりと記入していないため、忘れ物が多い」という現状を「昼休みまでに各教科係は翌日の予定を聞き、全員が帰りの会までに道するべに記入する」という活動を行うことにより、当たり前前の方が当たり前前にはできるクラスになり、学級の課題が改善されるのではないかということを確認し提案の仕方について確認を行った。

###### ○活動計画の作成

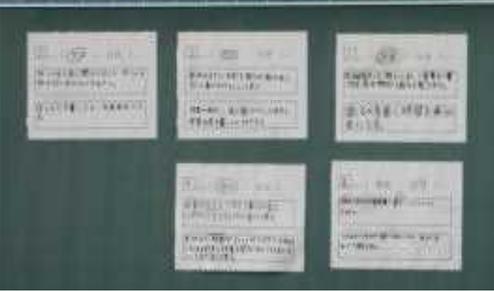
学級委員と打ち合わせを行い、「当たり前前の方が当たり前前にはできない」という学級の課題と、「昼休みまでに各教科係は翌日の予定を聞き、全員が帰りの会までに道するべに記入しよう」という道するべ係からの提案、「よりよいクラスにするために道するべ係からの提案を練り直し、クラスで取り組むことを話合って決めよう」という本時のめあてを確認したのち、進行台本について読み合わせを行った。

###### ○問題意識を高める

事前に話し合う課題と提案の概略について、掲示板でクラス全体に連絡しておいた。

(2) 本時の展開

	主な学習活動	・指導上の留意点及び支援	時間
つ か む	①初めの言葉 (学級委員) ②提案者の紹介 (学級委員) ③議題の提案とその理由 (「道しるべ係」) <個別活動> (5分) ・バタフライ・チャートに賛成、反対意見を記入させた。	・指導上の留意点及び支援 ・学級委員には現状の学級課題について話合うことを伝えさせた。 ・バタフライ・チャートへの記入の仕方を確認した。	10
	<p><b>②ーア 提案について、自分の考えをもたせるための支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての生徒が提案に対しての意見をもつことができた。</li> <li>・賛成・反対の両方に意見を記入している生徒も見られた。</li> </ul> <p>書けない生徒に対しては自分が思うことを素直に書くよう声かけを行った。</p>  <p>図7 個別支援の様子</p>		
	④話合いのめあての確認 (教師)	・賛成・反対を書き込んだ生徒にはその理由も考えるよう伝えた。	
	<p><b>【めあて】</b>                      よりよいクラスにするために道しるべ係からの提案を練り直し、クラスで取り組むことを話合って決めよう。</p>		
出 し 合 う ・ 比 べ 合 う	<p>合意形成5つのポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の事として考える。</li> <li>②自分の意見をもつ。</li> <li>③友達と意見を伝え合う。</li> <li>④友達の意見のよいところを見つける。</li> <li>⑤みんなが納得する意見を協力して決める。</li> </ol> <p>⑤班別協議</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 賛成・反対の確認</li> <li>2. 賛成の人の意見とよりよくする方法</li> <li>3. 反対の人の意見と代案</li> </ol>	・本時のめあてを班別協議に入る直前に全体で確認することによって、話合いの視点がぶれないようにした。  <p>図8 司会進行表</p> <p>班での話し合いがスムーズに行くように司会には「司会進行表」を渡した。</p>	20
	<p><b>②ーイ 自分とは異なる見方に気付かせるための支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バタフライ・チャートを活用し、自分の考えと友達の考えを比べることができた。</li> <li>・自分の考えと比較し、疑問や質問等の意見を出し合いながら班での意見をまとめていた。(図9)</li> </ul> <p>多数決で班の考えを決定するのではなく、全員が納得できるように話し合いを行うよう声かけを行った。</p>  <p>図9 班ごとの話し合いの様子</p>		

	<p>4. 質問・協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班の意見の確認 (図10)</li> </ul>  <p>図10 ホワイトボードにまとめた班ごとの意見</p> <p>⑥全体協議 (学級委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 賛成意見とよりよくする方法の発表</li> <li>・ 反対意見と代案の発表</li> <li>・ 質問・協議</li> </ul>  <p>図11 全体協議の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班員全員の意見を入れながら一つにまとめるよう声かけを行った。</li> <li>・ 各班ごとに立場、理由、代案または改善案をホワイトボードに書かせて黒板に掲示させた。</li> <li>・ 全体協議に入る前に本時のめあてを全体でもう一度確認し、「クラスをよりよくするための話合い」であること、「みんなの意見をうまく取り入れること」を意識させてから全体協議に入らせた。</li> <li>・ 班別協議と同様に賛成意見から先に発表させた。また、同様の意見の場合は重複しない部分のみ発表させた。(図11)</li> </ul>	15
まとめる	<p>⑦先生からの話 (教師)</p> <p>⑧振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めあてについて評価しながら、よかったところについて称賛した。</li> <li>・ 各自の取組について振り返りを記入させた。</li> </ul>	5

(3) 事後の活動

○全体協議の場で決まらなかった意見の整理

本時で全体の合意形成までいかなかったため、次時の学活の時間を利用して話合いの続きを行った。班の意見を集約したが、まずは「昼休みまでに各教科係は翌日の予定を聞き、全員が帰りの会までに道しるべに記入する」という最初の提案を全員で実践してみようということになった。

○決めたことの実践

話合いを通して決まったことを翌日から学級で実践した。各係が忘れずに教科の予定や持ち物を記入するようになった。忘れていた係に対しては声かけもできるようになった。また、「帰りの会前に道しるべに予定や持ち物を記入する時間がほしい」と生徒から要望があったので設定したところ、忘れ物が話合い前に比べると減った。

○振り返り

決まったことを実践してみてどうだったかを振り返った。振り返りの記述欄には「係や委員会の仕事で活躍する場面が増えた」、「道しるべにしっかりと記入するようになったので忘れ物が減った」、「係が責任をもって仕事をするようになった」、「違うクラスの課題についても話合ってみよう」「自分の係の提案も話合ってみよう」等の記述が見られた。



## 実践例2（小林教諭：沼田市立沼田西中学校 第3学年）

### 1 議題 「学級をよりよくするためにできることをみんなで考えよう」

内容 (1) -ア

#### 2 議題選定の理由

##### (1) 生徒の実態（男子11名、女子18名、計29名）

本学級は、学校行事等で活躍するような元気の良い男子生徒を中心に、全体的に明るく活発な学級である。しかし、活発な生徒とそうでない生徒との間に隔たりがあることによって、学級での話し合いでは一部の生徒の意見だけが通ってしまうことがある。また、集団活動に積極的に参加せず周りに流されてしまう生徒も複数名見られる。以上のことから、個々の考えを出し合わせて全員でよりよい学級をつくろうとする主体性を高めたい。

##### (2) 本議題について

学級活動で学級の課題について話し合った際に、「人任せで自分の意見が言えず、周りの意見に流されてしまう」という課題が出された。そこで、本時では「一人一人が意思をもち意見を言い合えるクラスをつくるためにはどうしたらよいか」を議題とし、8つの班に分かれて班ごとに話し合う場面を設定した。

今回提案をする8班はこの課題を解決するためには、「意見の伝え方」を変えていくことが重要だと考えた。8班は話し合いをする際に、「なんでもいい」「どちらでもいい」という無責任な言葉を使わないようにすればよいのではないかと考えた。これが習慣化されれば、自分の意見を積極的に言えるクラスになり、より積極性や団結力が高まると考えた。

#### 3 ねらい

「一人一人が意思をもち意見を言い合えるクラスをつくるためにはどうしたらよいか」という課題を自分事として捉えて、よりよい集団にするための取組について主体的に話し合い合意形成ができる。

#### 4 指導の様子

##### (1) 事前の活動

###### ○問題の発見

学級活動「学級の課題を考えよう」により、学級の課題を明らかにした。いくつか挙げられた課題の中から、全員で検討すべき課題を選抜した。本時の活動では、「人任せで自分の意見が言えず、周りの意見に流されてしまう」という課題を改善するために学級会を開き全員で話し合っていくことが決定された。

###### ①-ア 学級の課題を考える場の設定

- ・様々な学級の課題が出され、個人で解決できる課題と全員で解決しなければならない課題とを区別して整理することができた。

###### ○議題の選定

学級の課題に対して班ごとに提案を練った。その中で、8班の提案について学級全体でさらに検討していくことを決めた。

###### ①-イ 学級への提案を考える場の設定

- ・班ごとに学級の課題を解決するための提案を考えることができた。
- ・8班は学級をよりよくするために『「なんでもいい」「どらでもいい」という無責任な言葉を使わないようにする』という提案を考え出すことができた。

### ○議題の決定

8班と打ち合わせを行い、課題を解決してどんなクラスにしたいかを明らかにした上で、『「なんでもいい」「どちらでもいい」という無責任な言葉を使わないようにする』という提案をすることを再度確認した。また、この提案を実践することで今まで人任せな発言をしてきた人を減らし、誰もが自分の意見を堂々と言える学級にしていきたいことを確認した。

### ○活動計画の作成

学級委員と打ち合わせを行い、今回の課題と提案内容、合意形成の仕方について確認した後、進行台本について読み合わせを行った。

### ○問題意識を高める

事前に話し合う課題と提案の概略について連絡黒板を通じて生徒に伝えた。

### (2) 本時の展開

	主な学習活動	・指導上の留意点及び支援	時間
つ か む	①話合いのめあての確認（教師）	・話合いの目的をおさえた。	10
	【めあて】「一人一人が意思をもち意見を言い合い解決できるクラス」にするために、みんなで取り組むことを協力して決めよう。		
	②初めの言葉（学級委員） ③提案者の紹介（8班） ④議題への提案とその理由（8班）		
	【議題】一人一人が意思をもち意見を言い合えるクラスをつくるためにはどうしたらよいか。		
【解決策】「なんでもいい」「どちらでもいい」という無責任な言葉を使わないようにする。			
	〈個別での活動〉（3分） ・バタフライ・チャートの記入	・バタフライ・チャートを記入することで、自分の意見を明確にさせた。賛成であっても、一部反対意見があれば記入してよいと指導した。 ・自分とは異なる意見をもつ人との折り合いのつけ方を考えさせた。	
<b>②ーア 提案について、自分の考えをもたせるための支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての生徒が賛成や反対の意見や理由を記入することができた。</li> <li>・すぐ書き出せない生徒も賛成か反対かを選ぶことはすぐできたため、賛成・反対する気持ちを聞きながら一緒に言葉にしていった。</li> <li>・多くの生徒が付け足しの意見や疑問点を記入し、学級の課題に対して自分事として捉えることができた。</li> </ul>			

- 合意形成5つのポイント
- ①自分事として考えること
  - ②自分なりの意見をもつこと
  - ③対話をして情報を共有すること
  - ④多様な考えを認めること
  - ⑤納得する策を協働で見いだすこと



図13 班別協議前の様子

- ⑤班別協議（各班代表者）
  - ・賛成・反対の確認
  - ・賛成の人の意見とよりよくする方法
  - ・反対の人の意見と代案
  - ・質問・協議
  - ・班の意見の確認（ホワイトボード）

○班はこの提案に（賛成・反対）です。

その理由は、

（賛成の場合）付け足しとして、

（反対の場合）代案として、

- ・班別協議に入る前に、合意形成の仕方のポイントを提示して、話し合う際の注意点をおさえた。（図13）
- ・前回の活動を振り返らせながら、改善したいポイントを明確にさせた。

前回の話し合いでは、「学級の課題について自分事として考えられなかった人がいた」、「自分なりの意見をもって発言をすることができなかった」という反省点が挙げられ、今回の話し合いで改善していくことを確認した。

- ・それぞれの意見を発表している時にバタフライ・チャートに自分とは異なる考えを記入させた。ここでは、話し合いの中で賛成・反対の立場が変わってもよいことを確認した。
- ・反対意見の場合は、反対の理由とともに、代案を考えさせた。
- ・班での意見を集約する際には、班の立場と代案等をホワイトボードに記入させた。書き上がった班から黒板に掲示した。（図14）

②ーイ 自分とは異なる見方に気付かせるための支援

- ・バタフライ・チャートに自分の意見を書き込むことで自分の立場が明確になり、班別協議では活発な意見交流ができた。
- ・「今後の生活に役に立つからよい」「意見を言わないと周りが困ってしまう」「誰でも発言しやすいように周りの人の意見を聞き入れることも大事である」という様々な意見が出され、自分とは異なる意見をバタフライ・チャートに書き加えながら整理している生徒もいた。
- ・バタフライ・チャートに、賛成と反対の両方の意見を書いていた生徒もいて、課題について多角的に捉えた話し合いができた。



図14 班別協議の様子

8班の意見には賛成だが、「本当に意見が思いつかず、どちらでもよいと思ったときはどうすればよいか」といった検討事項やさらによりよくするための付け足しの考えなどもホワイトボードに記入するように伝えた。

	<p>⑥全体協議（学級委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成意見の発表</li> <li>・反対意見の発表</li> <li>・質問・協議</li> </ul>  <p>図15 全体協議の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班別協議と同様に賛成意見から先に発表させた。発表を聞きながら、ホワイトボードに書かれた「付け足しの考え」や「検討事項」に色を変えながら線を引き整理した。（図15）</li> <li>・班ごとの意見のよいところに目を向けさせ、それらを組み合わせて学級で取り組むことを決めるように声をかけた。</li> <li>・話が議題から逸れてしまいそうな時は、めあてを再度確認し、話合いの目的を捉えさせた。</li> <li>・多数の意見を学級委員がまとめきれない時は、教師が考えを整理する手伝いをした。</li> </ul>	20
まとめる	<p>⑦先生からの話（教師）</p> <p>⑧振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話合いのめあてに沿って評価し、よかったところを賞賛した。</li> <li>・集約できなかった意見は、教師がまとめず、再度話し合う場を設けることを伝えた。</li> <li>・各自の取組について振り返りを記入させた。</li> </ul>	5

自分の意見をもっと言える生徒は意見を述べる時に何に気を付けたらよいか、意見が言えない生徒のために何ができるかを考えさせた。

### （3）事後の活動

#### ○実践内容の決定

学級会で集約できなかった意見を再度話し合う場を設けて整理した。「なんでもいい」「どちらでもいい」という無責任な言葉を使わないという8班の提案を授業で実践すると共に、話を聞く側も頷いたり問いかけたりしながら聞くことを決めた。以前の学級会での話合いをもとに、「一人一人が意思をもち意見を言い合い解決できるクラス」にするためには、お互いの考えを尊重して話しやすい雰囲気をつくるのが大切だということに気づくことができた。

#### ○決めたことの実践

話合いにより決まったことについて、学級で実践を行った。話合いの際には、自分の考えをうまく整理して話せなくても発言しようとしている様子が見られた。相手の意見を聞いてメモを取る習慣ができ、疑問に思ったことを聞き返す様子も見られた。無責任な発言をしないように意識することと聞き手の返答や態度を変えることで、活発な話合いができるようになってきた。授業で話し合う場面があった時には、話し手と聞き手が協力して話しやすい雰囲気をつくっている様子を称賛した。

#### ○振り返り

学級会で決まったことを実践してどうだったかを振り返るとともに、自己の成長について考えさせた。「昨年や今年の初め頃と比べて、発言したり、班での意見に全員の考えを入れてまとめるのがうまくなった」や「他の人の話をしっかりと聞き入っていたところがすごくよかった」「話合いをすることで、このクラスの課題とそれに向けてどのように対策すればよいか分かり改善できた」というように、自分自身の成長に関する記述が多く見られた。生徒は実践に意欲的に取り組み達成感を得られている様子だった。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・生徒主体で「めあて」を考えさせたり、前回の話し合いの改善点を話し合わせたりしたことで、学級の課題を自分事として捉えることができた。
- ・バタフライ・チャートを書くことで自分の意見が明確になり、活発な班別協議ができた。班別協議では賛成・反対の意見だけでなく、「今後の生活に役立つかどうか」「実際にやっていると生じる問題点」など様々な意見が出されたため、全体協議で検討することができた。
- ・バタフライ・チャートに賛成と反対の両方の意見を書くことで、課題を多角的に捉えることができ、深い話し合いを展開していくことができた。また、クラスのことを考えると賛成だが、自分事として考えると反対だというように、本音の思いを踏まえた上で、学級のためにどうすべきか考えることができた。(図16)

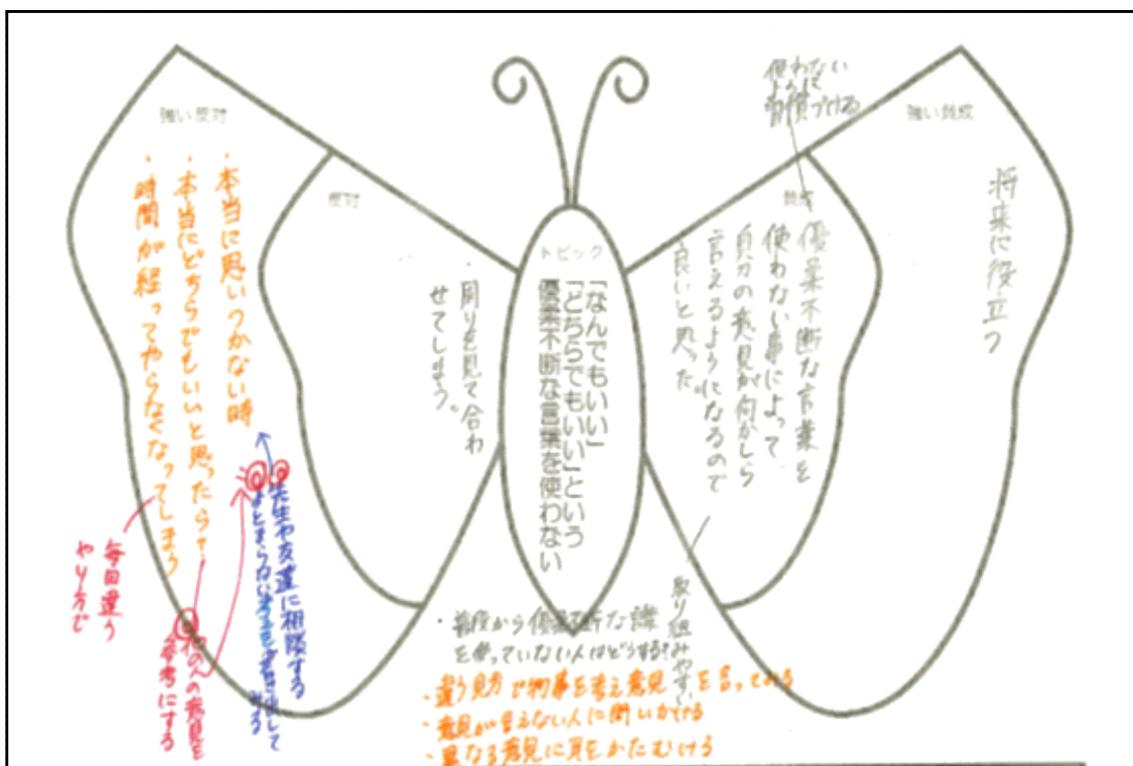


図16 授業終了後のバタフライ・チャート

### (2) 課題

- ・課題を多角的に捉えることができたことで多くの意見が出されたが、それらを時間内に集約することが難しかった。
- ・バタフライ・チャートは、全体協議での合意形成のためのツールとして活用することは難しかった。班別協議までの合意形成のためのツールとして活用し、多角的な意見を出すことで全体協議を活発化させたい。その際、話し合いの論点がずれないように、教師が問い返したり、話し合いの目的を確認したりする必要がある。
- ・バタフライ・チャートは賛成か反対かを問うものなので、ややディベート的な話し合いになる。学級の課題の中で、賛成と反対がおおよそ半々に分かれる課題に対しては、バタフライ・チャートは効果的である。話し合いの内容に応じてバタフライ・チャートを活用していくとよい。

### 実践例3（鈴木教諭：沼田市立沼田中学校 第1学年）

1 議題 「学級をよりよくする提案について話し合おう」 内容 (1) -ア

#### 2 議題選定の理由

##### (1) 生徒の実態（男子17名、女子18名、計35名）

本学級の生徒は、普段から落ち着いて生活を送ることができている。人の話を聞くときは静かにすることができ、活動には集中して取り組むことができる。一方で、返事をすることができない生徒が多く、授業で発言する生徒は一部であり、授業中に分からないことを質問できる生徒はほとんどいない。

事前に行ったアンケートでは、「学校は楽しい」と答えた生徒は100%であったが、「学級の中で活躍する場面はありますか」という質問に対する肯定的な回答は53%であった。また、自由記述欄には「発表したいけれど手を上げにくい」や「あまり手を上げない人もいる」という記述も見られた。

このことから、学級の課題を自分事として捉えるとともに、自分の意見をもってそれを発表する活動を行うことで、自己有用感を高めて生徒たちのさらなる成長につながるものと考えられる。

##### (2) 本議題について

学級活動「クラスの課題を考えよう」を行った際には、「休み時間に教室の後ろで騒いでいたり、道を塞いでいる人がいる」という課題が出された。本時では、この課題を改善するための教科連絡係からの提案について話し合う場面を設定した。

本学級では、休み時間になると友達と話をしている生徒が多く見られる。一部の生徒は数人で集まり、通路を塞いでしまっていることがある。次の時間の準備をするために荷物を取りに行くときに困っている生徒が時々見られる。

このことを改善するために教科連絡係は「次の時間の準備をしたら着席して待つ」ことを提案した。このようにすれば、通路を塞がれて困ってしまう生徒もいなくなり、落ち着いた生活が送れると考えたからである。しかし、この提案には「休み時間には友達と話がしたい」や「休み時間は自由にしたい」という反対意見が出されることが予想される。生徒同士の話し合い活動を通して、周囲に気を配りながら、生活ができるようにしていくことを目指した合意形成が行われることが期待される。

### 3 ねらい

学級の課題を自分事として捉えて自分の考えをもち、みんなが気持ちよく生活するために異なった考え方を受け入れながら主体的に話し合い活動を行い、合意形成を行うことができる。

### 4 指導の様子

#### (1) 事前の活動

##### ○問題の発見

学級活動「学級の課題を考えよう」により、学級の課題を明らかにする。本時の活動では、「教室の後ろで騒いでいたり、道を塞いでいたりする人がいて困っている」という課題を改善するための提案を各係が考える。

##### ①-ア 学級の課題を考える場の設定

- ・自分たちの生活における課題を明確にすることができた。
- ・様々な意見の中から、学級として解決していくものを選ぶことができた。
- ・係活動ごとに解決する方法を考えることができた。

### ○議題の選定

各係からの提案のうち、教科連絡係からの「休み時間が残り5分になったら、席について静かに読書をする」という提案について話し合うこととする。

### ○議題の決定

教科連絡係と打ち合わせを行い、本時は「教室の後ろで騒いでいたり、道を塞いでいたりする人がいて困っている」という課題を「休み時間が残り5分になったら、席について静かに読書をする」という活動を行うことで、ロッカーに荷物を取りに行くことができずに困っている人をいなくしたいことを確認し、提案の仕方について確認を行う。

#### ①ーイ 学級への提案を考える場の設定

- ・提案をする理由やこれによってどのような効果があるのかについて具体的に考えることができた。
- ・提案をしたときにどのような反対意見が出るかを予想することができた。



図17 学級への提案を話し合う様子

### ○活動計画の作成

学級委員と打ち合わせを行い、今回の課題と提案内容、話し合いのめあてを確認したのち、進行台本について読み合わせを行う。

### ○問題意識を高める

事前に話し合う課題と提案の概略について連絡黒板を通じて連絡しておく。

#### (2) 本時の展開

	主な学習活動 (司会者・発表者)	指導上の留意点	時間
	①初めの言葉 (学級委員)	・司会進行を生徒主体で行わせた。	10
つかかむ	【課題】教室の後ろで騒いでいたり、道を塞いでいたりする人がいて困っている。		
	②話し合いのめあての確認 (教師) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             合意形成5つのポイント              ①課題を自分のこととして考える              ②自分の意見をもつ              ③友達と意見を伝え合う              ④友達の意見のよいところを見つける              ⑤みんなが納得する意見を協力して決める           </div>	・めあてを発表する前に、今日の課題について、学級で取り組んで行くことが大切であることに触れ、合意形成の大切さを確認した。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             みんなが気持ちよく生活するための方法を考えようと伝える。           </div>		
	【めあて】課題を自分のこととして考え、みんなが気持ちよく生活するために、学級で取り組んでいくことを決めよう。		

図18 めあての確認の様子

③提案者の紹介（学級委員） ④議題の提案とその理由（教科連絡係）	・話合いのめあては、教師がこれまでの話合いの様子と今日の課題に触れながら、提示した。
-------------------------------------	--

【提案】休み時間が残り5分になったら、席について静かに読書をする。  
 <個別での活動>

**②ーア 提案について、自分の考えをもたせるための支援**

- ・提案に対して、賛成・反対の立場を決めることができた。
- ・自分の立場とは異なる考えを記入したり、疑問に思うことを記入できた生徒が多かった。

バタフライ・チャートには自分の素直な気持ちを書くようにと声をかけた。



図19 個別活動の様子

出し合う・比較あう	⑤班別協議（各班代表者） ・賛成・反対の確認 ・賛成の人の意見 ・反対の人の意見 ・質問・協議	・提案者は各班を回り、意見をバタフライ・チャートに記入させる。その際、班から質問が出た場合にはその質問に答えさせた。	10
-----------	---	--	----

**②ーイ 自分とは異なる見方に気付かせるための支援**

- ・バタフライ・チャートに記入したことをもとに、自分の考えを発表することができた。
- ・友達の見意見を聞いて、自分のバタフライ・チャートに書き込んでいる生徒もいた。
- ・色々な立場の意見をもとに、班としての意見を定めることができた。



司会が「話合いの流れ」カードをもとに進行をしながら、話合いを行わせた。

図20 班ごとに話し合う様子

話し合いが停滞している場合は、班としての立場を決め、全員が納得できるように意見を伝え合うように助言した。



図21 話し合いが停滞している班への支援の様子

- ・ 班の意見をまとめる

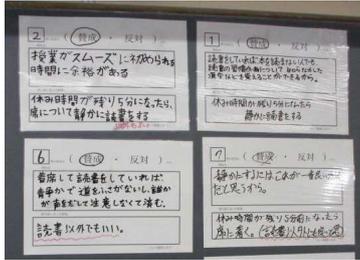


図 2.2 掲示されたホワイトボード

- ・ 班で合意形成ができれば、黒板にホワイトボードを用いて掲示させた。(図 2.2)

賛成の班が多いものの、反対の班もあり、本当にできるのかという声も出された。

⑥全体協議 (学級委員)

- ・ 賛成意見の発表
- ・ 反対意見の発表
- ・ 質問・協議



図 2.3 提案者が意見を述べる様子

班からの意見を受けて、提案者も考えを発表した。

みんなが気持ちよく生活するために、みんなで取り組んで行くことを出し合った。



図 2.4 意見を発表する生徒

- ・ 班別協議と同様に賛成意見から先に発表させる。また、同様の意見の場合は重複しない部分のみ発表させた。(図 2.3、図 2.4)
- ・ 各班で出た意見に対しての質疑応答を行わせた。
- ・ 賛成が多数の場合は、めあてに立ち返り、本当にみんなでできるか、逆に困ってしまうことがないかと問い返した。
- ・ 反対が多数の場合は、めあてに立ち返り、みんなが気持ちよく生活するために何ができるかを問い返した。
- ・ 学級として、全員が実践できる活動になるように話し合わせた。
- ・ 話し合いの論点がずれてしまった場合には、教師がめあてに立ち返り、「みんなで取り組んでいくこと」を決めていることを確認した。

まとめる

⑦決まったことの確認 (学級委員)

⑧先生からの話 (教師)

⑨振り返り



図 2.5 振り返りの様子

- ・ 全体協議で話し合い、合意形成したことを学級委員に確認させた。
- ・ 話し合いのめあてについて評価しながら、よかったところについて称賛した。
- ・ 各自の話し合いへの取組や今後取り組んでいくことについて、振り返りに記入させた。(図 2.5)

自分の話し合いの様子を振り返らせた。

### (3) 事後の活動

#### ○決めたことの実践

話し合いにより「休み時間が残り2～5分間になったら席につき、できることをする」ということが決まり、学級で実践を行った。生徒同士で声を掛け合い、時間になったら座るようにしていた。そのため、次の時間の道具を取りに行けなくて困っている生徒がほとんどいなくなった。

#### ○振り返り

実践後には、「自分たちで決めたことだから、他人事ではなく協力しようという気持ちをもって実践することができた」という振り返りが見られた。また、「チャイム着席はできるようになってきたけれど、2分前で座らない人がいる」という振り返りも見られ、さらに話し合いをする意欲をもつ生徒も見られた。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・係活動を基盤として生徒主体で提案を行わせたことで、学級の課題を他人事ではなく、自分たちのこととして捉えたり、自分の意見を発言したりするようになってきた。
- ・バタフライ・チャートを用いることで自分の立場を決めて理由を明確にするとともに、逆の立場ならばどうかについて考えることができた。また、グループでの話し合いでは、自分の意見を発表したり、相手の意見に反応したりすることができた。(図26)

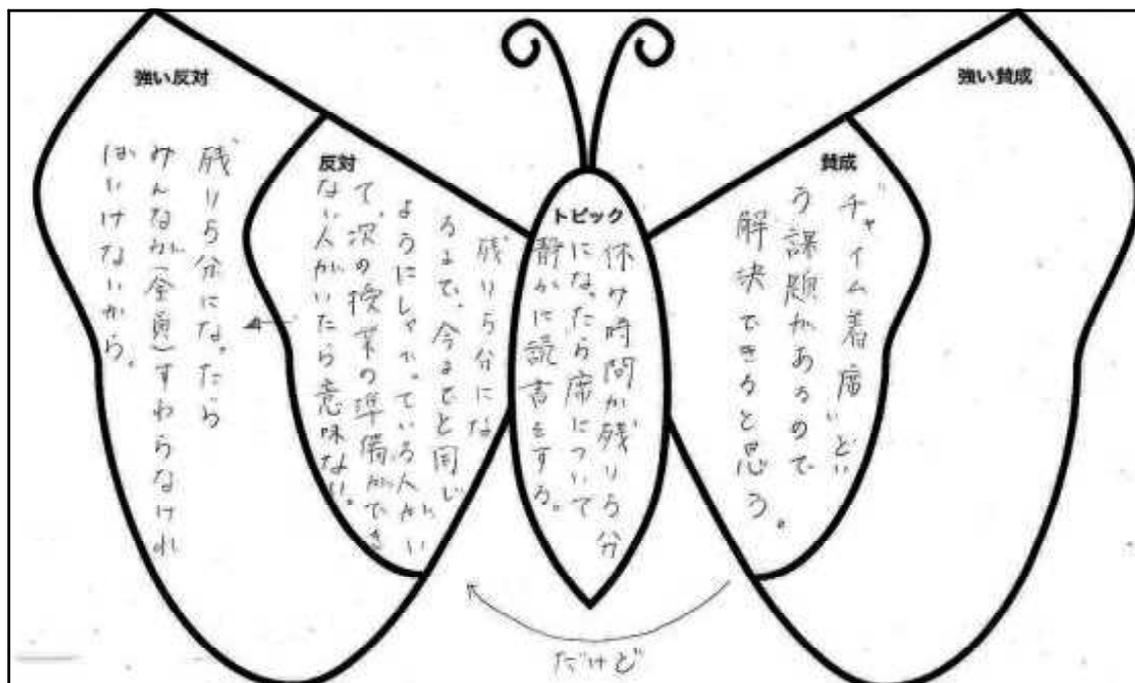


図26 授業後のバタフライ・チャート

### (2) 課題

- ・係活動を基盤として行うことで自分事として課題をとらえるなどの効果はあったものの、係活動を充実させることでさらによりよい課題や提案が見いだせると考えられる。
- ・班での話し合いにおいては反論したり、自分の意見を言ったりする生徒は見られ、時間内に活動が行われたが、全体での話し合いでは発言する生徒は一部に偏ってしまったり、「何分に席に着いたらいいのか」という議論に時間がかかってしまったりした。全体での話し合いもグループのまま行うなど座席の工夫したり、休み時間の意義について確認したりすることで、改善するのではないかと考えられる。